The Japanese Association for Behavior Analysis(JABA)

日本行動分析学会第20回年次大会(2002/8/22-24)発表論文集 P-4

ネーミング誘導刺激が等価クラスの形成に及ぼす影響

—反応時間を指標として—

○白井　彩子・堀　耕治
立教大学文学部

キーワード：刺激等価性、node距離効果、ネーミング

Fieldsら (1990)は刺激等価性はnodeが介在して成立していると主張しており、抽象図形を用いた実験においてnodeの増加に伴う反応時間の増加と正答率の減少(node距離効果)を報告した。一方、Horne & Lowe (1996)は刺激等価性の成立はネーミングによるものだと主張している。そこで本研究ではネーミングを誘導する刺激をふかした条件と付加しない条件の間でnode距離効果を比較した。

Ⅰ. 被験者

14名の大学生または大学院生(ネーミング誘導条件と統制条件各7名)。

Ⅱ. 方法

訓練、テストは見本あわせ課題を用いて行われ、見本刺激が呈示されてから比較刺激を選択するまでの反応時間を計測した。

1. ベースライン

18個の刺激を3つのクラスに分け、ネーミング条件、統制条件共にnodeが4つになるように訓練を行った。ネーミング誘導条件の場合は見本刺激の呈示と共にクラスに対応した文字が呈示され、被験者が読み上げた後、比較刺激の呈示と同時に消えるようになっていた。1セッションは15試行からなっており、反応の正誤に関するフィードバックを与えた。正答率90%以上のセッションが3回連続した時点で次の段階に移行した。

2. ベースラインテスト

見本刺激の呈示順序をランダムとした。1セッションは15試行からなっており、フィードバックはいっさい行わなかった。正答率100%のセッションが生じた時点で次の段階へ移行した。

3. テスト

ベースラインで訓練した関係性とともに対称性、推移性、等価性のテストを行った。1セッションは90試行からなっており、270試行を行った。

Ⅲ. 結果と考察

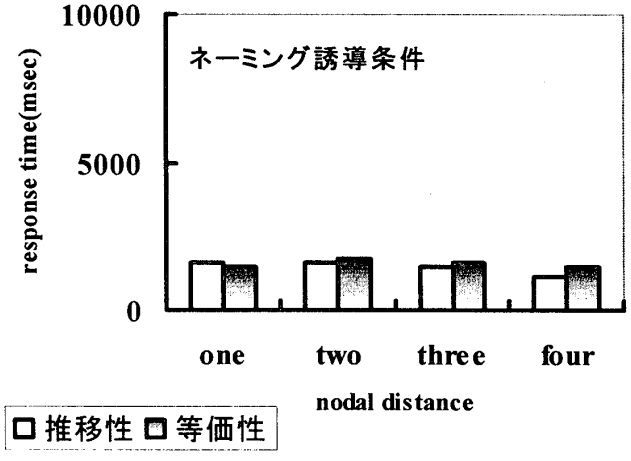
テスト段階で270試行経過した時点で統制条件の5名は各関係性の正答率が75%を下回ったために分析対象外とした。

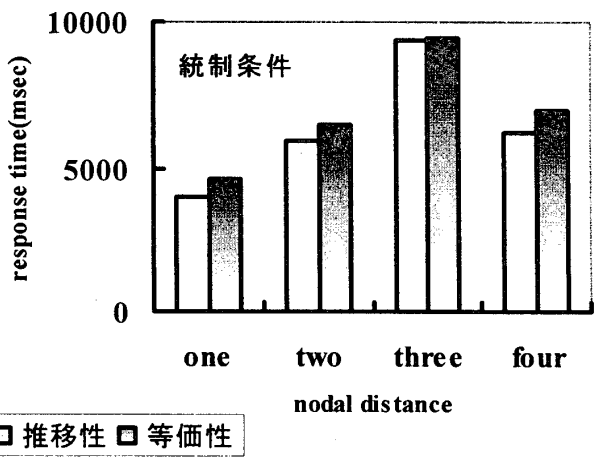
nodeと反応時間の関係に関しては、統制条件でnodeの増加にともなう反応時間の増加がみられたのに対して、ネーミング誘導条件ではnodeによらず一定の反応時間がみられた。これは、被験者が刺激に対してネーミングをすることにより、どのnodeの関係性もone-nodeになったためと考えられる。

Ⅳ. 引用文献

Fields, L., Adams, B. J., Verhave, T., & Newman, S. , *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 1990 ,**53**, 345-358.

Horne, P.J., & Lowe, C.P., *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 1996 ,**65**, 185-241.





NII-Electronic Library Service